



こまえをこたげる

こまごなNEWS

Vol.14

2018年07月30日

発行号

発行:責任編集
狛江市岩戸北
3-18-8-701
狛江で分かりやすい
政治を伝える会



17834票

いいなやさし

新市長誕生

平成30年7月23日(月)
狛江駅北口にて

市長選挙が終わって

「地方政治は首長と議会の二元代表制で成り立っているくせに、議員が首長を応援するなんてケシカラン！」市長選挙でスタッフとして動いておりますと、市民の方から、こんなお叱りの言葉を頂戴することもあります。たしかにおっしゃる通りだと思えます。それでも、ひとつだけ申し上げておきたいのは首長選挙と市議会議員選挙を比較した場合、かける労力や人員規模は前者がけた違いに大きいということです。

実際に私自身が狛江市議選に立候補しようと思った時は、市内に知り合いの方が5人位しかいなくて大変心細かったのですが、様々な方からのご縁に恵まれて、今こうして市議会の一席を頂戴することができております。しかしながら、その席が一つしかない市長選挙ともなりますと、組織の力がないとどうにも選挙戦を戦うことができません。ましてや、その実働部隊となるのは選挙のことがわかっていない地方議員ということになってしまいます。

今回の市長選挙の経緯を振り返ってみますと、そもそもは前市長のハラスメント問題が発端です。その中で6人の超党派女性議員が「ハラスメントは許さない！」と駅頭でビラを配りながら叫んでいらした動きがありました。一方、無党派の山田議員や私も含めた有志超党派議員では「外部の目を入れて、且つ首長も処罰の対象(公表)となる」条例提案に向けて不断の努力を続けておりました。そして前市長の辞職が承認された6月議会で、議員提出議案としての「狛江市職員のハラスメント防止等に関する条例」を議決しました。因みに狛江市議会における、いわゆる議員立法での新規条例は、平成になって30年で初めてのこと。それほどの難事業を成し遂げられたということでもあります。

そんな中で行われました市長選挙では、6人の超党派女性議員の一人であり、且つ7月15日の告示日直前まで日本共産党の市議会議員であった田中とも候補と、6年前まで狛江市の副市長を務めていた松原とお候補の一騎打ちになりました。地方議員である私も、松原とお選挙対策本部で一つの駒として働くことになりましたが、その動機は、ひとえに「狛江の行政を日本共産党に戻さない」という行動基本原理があるからです。そして、選挙戦になることで民意を問うべきという強い信念で動いてまいりました。

日本一やさしいまち、狛江。

選挙対策本部の中で私は「広報・デザイン制作・ソーシャルネット」を司る役割を仰せつかりました。まずやらなくてはいけない作業は、選挙戦を戦う上でのキャッチフレーズ作り。選挙ポスター等のキービジュアルの中に必要となります。

今回の「日本一やさしいまち、狛江。」というコピーは、松原候補から伺った「人に優しいまちづくり」という政治信条からインスパイアされました。前市長のセクハラによって傷ついた被害者に寄り添い、もう二度と悲しい出来事を繰り返してはならないという決意から「日本一やさしいまち」を目指すというストーリーです。「日本一」という目標は狛江市に愛着のある市民の誇りに働きかける効果が期待できると考えました。また、「やさしい」を軸に、人にやさしく、環境にやさしく、高齢者にやさしくなど、選挙演説で展開が可能という副次的効果も狙いました。

いいなやさし、新市長誕生

17834票、「いいなやさし」とも読めます。狛江市民の方からこの得票数字を得て、新市長が誕生しました。私は二元代表制の中で市議会議員として新市長をしっかりとチェックしていく役割を担っています。有権者の方々へ約束した公約が果たして実現されていくのか？ それを見定めていくべき市議会議員の役割は非常に大きいものと自覚しています。私も残りの任期がわずかとはなりませんが、「日本一やさしいまち、狛江」の実現のため、あるいは市民の皆さんが願う狛江の夢を実現するためにしっかりと働いてまいりたいと思います。

完全無所属の狛江市議会議員 三宅 まこと



DREAM COME TRUE
狛江の夢を叶えよう